

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570900369		
法人名	医療法人社団 村重医院		
事業所名	グループホーム こもれび		
所在地	山口県山陽小野田市大字有帆字真土535－118		
自己評価作成日	平成24年10月30日	評価結果市町受理日	平成25年5月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

更なる地域密着を目指し近所の方や子供達に気軽に立ち寄って頂けるように日頃より挨拶や地域の行事に参加している。地域の方がグループホームや認知症への理解を深める為、子供会・公民館・自治会等と交流を図り、利用者が地域の方やボランティアとふれ合えるように支援している。地域の方が利用者と馴染みの関係になれ習い事の先生としてボランティアを率先して下さっている。独自の秋祭りや子供会との交流も年間行事として定着し、地域の方や子供達が行事を通して気軽に立ち寄れる場になり利用者の楽しみ事が多様化している。職員は運営の理念を共有し、パーソンセンタードケアを形にすることに取り組んでおり、利用者や家族の思いをくみ取り【その人らしさ】を引き出せるよう支援している。利用者の希望などによりカラオケ・ラーメン店・ファミリーレストラン・お大師様巡り・遠方へのドライブを楽しまれるなど、外出先が他方面へと広がっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

目標達成計画にそって、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、自治会の人達や子ども達との交流に取り組まれ、子ども会の廃品回収や地域の七夕飾り作り交流会に参加されたり、子ども達がうさぎの餌やりを通して、日常的に事業所に立ち寄ることができるように工夫されるなど、馴染みの関係を深めておられます。自治会と「緊急時要請連絡体制」を構築され、災害時の地域との協力体制を築いておられます。図書館から本を借りての読書、季節感のあるオブジェ作り、利用者による紙芝居、本の読み聞かせ、習字、編み物、カラオケなど楽しみごとや活躍できる場面づくりの支援をされて、日々の暮らしが楽しみや張り合いのあるものになるよう支援されています。地域で暮らす友人や知人の来訪、住んでいた家の周辺や昔の職場周辺の散策、家族の協力を得て葬儀、墓参り、法事に出向いたりなど、利用者一人ひとりの希望にそった外出支援に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で地域の一員として根差した生活を楽しめるようにとの思いが込められた独自の理念を心に刻みながら毎日朝礼後に職員で唱和し、ミーティングで何度も理念を共有する事の意義について学び、実践につなげている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所に掲示し、毎朝唱和し、月1回のミーティング時に確認して、共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の草取り、子供会の廃品回収等に参加しており、地域からの行事の呼びかけにも応じて交流を深めている。近隣の方とは飼っているウサギへの餌やりや触れ合いを通して交流を深めており、近隣の方の突然の訪問にも応じてゲームやおやつ作りを共に楽しみ日常的な交流が図れている。	自治会に加入し、自治会の清掃活動や子ども会の廃品回収、地域の七夕飾り交流会等に参加している。事業所の秋祭りに「子ども太鼓」の参加がある他、事業所のうさぎに餌をやり立ち寄る子ども達との交流や地域の人からの野菜の差し入れ、散歩時の挨拶など日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症やグループホームを地域の方に理解して支援して頂けるように、地域や子供会との交流を図り来苑時は認知症に関する情報をお伝えしている。代表者・管理者・ケアマネは認知症の方を自宅で介護している方向けのアドバイスを製薬会社から依頼を受けてホームページのインタビューに応える形で貢献している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を行うことで管理者・職員はサービスの質の振り返りを行う機会としており、向上へと繋げている。外部評価を受け日頃よりアイデアを出し合い実践している。行事や交流が増加傾向にあるが、運営者は金銭面の支援をバックアップし手伝いを率先して行っており全職員一丸となり改善に取り組んでいる。	評価の意義について理解し、全職員で自己評価に取り組んでいる。利用者が地域とつながりながら暮らし続けるための近隣の人との日常的な交流について、目標達成計画を立て、具体的な改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、運営推進会議では取り組み状況報告や隔月発行のこもれび便りから日常の様子やイベント時の利用者の様子を写真からも感じ取って頂いている。会議がマンネリ化しないように、ボランティアや利用者参加型・試食会等を工夫しており、出された意見を実践することで地域へと向けたサービスの幅を広げている。	議題に応じて自治会長、消防団員、ボランティア等の参加を得て、年6回開催している。状況報告、活動報告、外部評価結果等の報告をして、意見交換をしている。災害時の地域との協力体制や地域行事への参加等についての意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いた市の担当者には日頃の取り組みを包み隠さず伝え、現場と行政のギャップや矛盾点を話し合ったり、今後の行事予定についての意見やアドバイスを頂いている。市役所訪問時や電話での相談にも応じて頂いており協力関係を築くように取り組んでいる。	市担当課とは、運営推進会議の他、電話や出向くなどして、利用者の状況や介護保険の申請、事故報告等について相談し、助言を得るなど協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる具体的な行為はミーティングで取扱い全職員が理解している。利用者の危険行為については原因のアセスメントを行い利用者の人権を守る事に加えその方の思いを理解する事に努め、身体的安全を考慮しながら拘束へと繋がる事無く、自由な暮らしを支援する為の工夫をしている。拘束の要望があった家族へは弊害や事業所の方針を説明して実践可能な改善策を話し合っている。	マニュアルがあり、内部研修を実施する他、毎月のミーティング時に話し合い、全職員は理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関には鍵をかけないで外出をしたい人には、一緒に出かけたり、気分転換や声かけの工夫などしている。スピーチロックについては管理者が指導するとともに、職員間で話し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員は身体面だけでなく精神面の虐待についても理解している。また、原因不明の痣や傷を見逃すことがないように注意深く観察して、申し送り・ヒヤリハットの提出を行い職員間で実践可能な対策をたて注意を喚起し防止に努めている。尚、家族へはヒヤリハットの報告と説明を合わせて行い、納得された上で捺印・サインを頂いている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と職員の三分の一は権利擁護の研修を受講しており他職員にも施設内研修により伝達を行っている。スタッフルームには権利擁護に関する資料をいつでも閲覧できるようにして家族や問い合わせにより説明が出来る様になっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書や重要事項等を説明を加えながら全て音読し不安や疑問が生じていないか働き掛けて、質問や要望には丁寧に答え理解・納得の上で契約を行っている。利用料の変更時は書面を送付して来苑時には十分な説明を行い理解して頂いている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の相談・苦情は日常的な寄り添いから聞き取りを行っており、家族には来苑時や手紙・電話等で意見や要望を伝える関係作りを日頃から行っている。苦情処理体制は、契約書・重要事項・玄関に目安箱を設置しており組織として、出された意見や要望には率直に対応してサービスの質の確保・向上につなげている。	相談、苦情の受付体制、第三者委員を明示し、処理手続きを定め契約時に家族に説明している。家族交流会時、運営推進会議時、来訪時、事業所だより送付時などに意見、要望を聞く機会を設け、食事介助への要望や訪問歯科診療の利用についての意見等を運営に反映させている。玄関に目安箱を設置している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は受診時や回診時に職員からの聞き取りを行っている。また、管理者は日々の勤務中やミーティング時に提案の受け入れや意見の聞き取りを行って利用者の状況や実情を把握し職員の声を活かすことで職員の働く意欲や質の向上につなげている。	毎月のミーティングで意見や提案を聞く機会を設ける他、日常の業務の中で管理者が意見や提案を聞いている。利用者の安全やサービス向上に係る気づきや提案、勤務体制についてなど出た意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は人事委員会を設立して、職員の日々の努力や実績・勤務状況等を把握出来る様になり、職員はやりがいを持てる様になった。また、職員の経験や役職に応じて職員処遇改善を図っており向上心を持って働ける様に配慮・対策を講じている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は新人研修を3日間行い、OJTや外部研修の参加を機会に応じて受講するように資料の提供や支援を行っている。研修の資料はスタッフルームに配置され希望する研修が受講できるように勤務の調整を行っている。また、施設内でも1ヶ月に1回勉強会を行い職員のスキルアップにつなげている。	外部研修は情報を伝え、段階や希望に応じて勤務の一環として参加の機会を提供し、受講後は復命し、資料を閲覧して共有している。年1回、3日間の新人研修を法人で実施している。内部研修は年間計画に添ってプライバシーの確保や緊急時の対応等を毎月実施する他、日々のケアの中で介護技術や知識など働きながら学べるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は2ユニット共にグループホーム協議会の会員登録を行っており、勉強会や交流会に参加して同業者との交流を強化する事で仕事に対する悩みの解消や情報の交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅や介護サービス事業所に訪問させて頂き、本人から趣味や好物・楽しみ事の聞き取りを行っている。また、訪問して頂ける方には実際に事業所の利用者と交流の機会を持って頂き事業所での生活の希望や不安事を聞き取り、思いをくみ取る事を優先して考え安心出来る関係作りに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時やサービス開始時まで、家族が不安な事や家族の思いを理解する事に努めている。本人と家族の思いや家族間の思いの違いを理解して受け止め、家族と何でも話せ相談しながら事を進める事が出来る様な関係作りに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族等から聞き取った実情や要望をもとに【その時】本人や家族にとって何が必要かを見極め先送りされる事なく必要なサービスを速やかに行う為に本人との寄り添い・傾聴を強化し、家族との連携を図る為に報告や相談・要望の聞き取りを充実させて事業所が本人にとって安心な場所として受け入れられるように段階的な支援の工夫に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と共に生き、共に暮らし喜怒哀楽を共有して、共に支え合い励まし合う関係を築いている。また、本人の意欲を引き出しながら出来る事を見極め可能性を引き出し共に喜びを共有している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は日頃の様子を報告して状況を把握して頂いている。また、遠方・疎遠だと諦めず電話で報告や定期的なお便りをする事で良い関係が培えるよう努めている。誕生会や行事のお誘いは必ず行っており、家族の来苑時はおやつの介助や爪切りを率先しておこなってくださる家族もおられる。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常的なドライブは故郷訪問を意識して行き先を利用者に選択して頂き思い出話を尋ねながら楽しんでいる。友人・馴染みの人を尋ねたり、友人・知人の来苑時はくつろいだ雰囲気の中で会話を楽しまれる様に支援している。また、手紙や電話を勧める事で関係が継続出来る様にしている。	友人や知人の来訪、ふるさと訪問、昔の勤務地の周辺の散策、電話や手紙、年賀状の支援をする他、家族の協力を得て行きつけの美容院の利用や墓参り、葬式や法事への出席、外食など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がゲームを選択して職員を介さずゲームを楽しまれたり、利用者同士が肩もみをされたり、他利用者の車椅子押して散歩されたり、フロアのソファで仲良く肩を寄せ合って傾眠される等、利用者同士が支え合う関係が出来ている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もお手伝いが出来る事を伝えており、入院中の方にはお見舞いに行き様子を確認し、家族にも電話で状況確認を行い退院後も受け入れ先の相談や情報提供を行って経過を見守り、フォローをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい暮らしを継続して頂く為に、本人の思いや希望・意向等の把握に努め、ケアカンファレンス等で把握が困難な利用者は本人の視点に立ち情報を共有して本人本位のケアを支援している。	入居時の生活歴介護基本情報やセンター方式のシートを活用する他、日々の関わりの中での何気ない会話や行動をケース記録に記録し、職員間で共有して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族に相談したり、職員間で話し合って本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら本人や家族にこれまでの生活歴・環境・馴染みの方の情報把握に努めている。また、以前利用していた事業所にも情報提供の協力体制を築き、今迄の暮らしを捉える事に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の部分的情報に陥らず、1日の流れの状況をチームで連携し総合的に把握して暮らしの現状を把握している。また、精神面・身体面等を含め申し送りやケース記録に記入する事でチームとして全職員が把握している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・計画作成担当者・担当者等が参加して本人がよりよく暮らせる為のアイデアや気づき・意見・課題について話し合い介護計画を作成している。尚、参加できない家族には来苑時や電話で聞き取りを行っている。また、月1回のケアカンファレンスで出された意見やアイデアも介護計画やモニタリングに活かしている。看取りの介護計画については、本人や家族の意向に添えるように主治医・看護師・管理者を交えて話し合っている。	管理者、計画作成担当者を中心に月1のカンファレンスを開催している。利用者、家族の意見や要望を聞き、主治医、看護師等の意見を参考にして、介護計画を作成している。1ヶ月毎のモニタリング、6ヶ月毎の見直しをする他、本人や家族の要望や状態に変化が生じた場合には、その都度、見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実践等をSOAP方式で記録を行い気づきを浮き立たせ職員間で情報を共有している。また、よりよいケアにむけて職員の意識づけとなるケアについてはア・イ・ウ・エ・オと+αで記入している。さらに、職員の気づきであるSOAP方式のAを活かし介護計画の見直しを図っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院時や家族の事情により生じたニーズにも臨機応変に対応している。楽しみ事に関しても、利用者の要望に応じて、独自の祭りやボランティアの受け入れ・外食・カラオケ・遠方へのドライブ等と多岐にわたり取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方や子供達の訪問・ボランティアの受け入れ・地域の方が自作のアクセサリ・懐かしい遊び道具を持参してくださっている。また、習字や紙芝居・畑仕事のお手伝いを率先してくださっている。図書館の本の貸し出しや郵便物の投函等を行って頂く事で地域の人や場を借りた取り組みを行っている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には、本人や家族に今までのかかりつけ医を継続して受けられるように説明している。事業所の協力医院を希望された場合は、本人と家族が希望され同意・納得された場合のみとなっている。また、必要に応じて歯科・眼科・皮膚科等の専門医に受診を勧めて本人や家族の納得のもとで受療が出来るように支援している。	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関をかかりつけ医とした場合は月1度の定期受診の支援をしている。他科受診は家族の協力を得て支援し、受診結果等を家族に報告し、共有している。緊急時の対応があるなど適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師が配置されており、日々の様子や気づきをかかりつけ医に報告し、早い段階で医療との連携を図っている。常勤の看護師は定期受診に同行して利用者の心身の把握に努めている。また、協力医院の看護師長が月～水曜日に訪問して様子観察を行っており職員は報告や相談を行い、かかりつけ医へと連携を図っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は同行しており、情報提供書を早い段階で提出して医療関係者と情報交換を行っている。また、家族の希望と医療とのすり合わせを図り早期退院へとスムーズに連携できるように本人・家族・医療関係者との関係づくりを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針に関しての書面から事業所の看取りの方針について説明している。重度化や終末期の対象者には段階に応じて家族とかかりつけ医・管理者・ケアマネ等と意向の確認を行いながら、対応方針の共有を図っている。本人・家族の希望に沿った看取り計画を作成し主治医との連携体制のもとで職員は身体面・精神面共に安らげるように統一したケアを行っている。	指針があり、入居時に事業所でできる対応について家族に説明している。重度化した場合は、家族やかかりつけ医、看護師、関係者で話し合い、医療機関への移設も含め、方針を共有して支援に取り組んでいる。内部研修でターミナルケアについて勉強会を行い、看取りケアに取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事業所がAED設置ステーションであり、職員全員が救急救命講習を受講している。さらに、ミーティングにおいて緊急時の対応について再確認を行っている。事故が発生しないように、ヒヤリハットの重要性を職員は理解しており、実践可能な対策をたてる事で職員の事故を回避する意識づけを高めている。	ヒヤリハット・事故報告書に記録し、他の職員も1週間以内に気づきなどを記録して、共有して、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。緊急時対策対応マニュアルがあり、年1回、消防署による救急救命講習やAED使用訓練を受講し、内部研修で看護師の指導による応急手当や初期対応の実践的訓練を実施して、全職員は実践力が身につくように取り組んでいる。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定して年2回の避難訓練を行っているが隣接している事業所と避難訓練を行う事で事業所間で連携が図れるようになっていく。また、自治会にも協力を要請している。法人内で宿泊出来る事業所があり・食糧は常時緊急時に対応出来るようにストックしており協力体制を築いている。	年2回消防署の協力を得て、昼夜間想定での避難訓練、消火訓練、通報訓練を利用者も一緒に実施している。自治会長に通報が届くと地域住民が駆けつける「緊急要請連絡体制」があり、地域との協力体制を築いている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営の理念に尊厳ある生活をおくる事が出来るようにうたっており、職員は定期的に言動において尊厳を尊重した対応を心がけるように学んでいる。全職員がトイレ誘導時や入浴誘導時・居室訪問時等において誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。	内部研修で学習し、職員は一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保について理解している。トイレ誘導時や入浴時等でも誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。一人ひとりの個別情報や守秘義務については取り扱いと管理を徹底している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望・願いを日頃から引き出せる様に質問方式を工夫して思いの表出が出来るように取り組んでいる。意思表示が出来ない利用者には表情や全身から発せられる反応より思いや希望や好みを把握してその人らしい希望や願いをくみ取れるように働きかけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴等の生活上の決め事を行わず、一人ひとりのペースで生活して頂いている。ドライブや買い物等の希望時は職員の予定を変更して利用者の希望を優先している。希望を表出できない時でも状態や動きで柔軟な関わりを持ち、思いの把握に努めその人らしい暮らしの支援をしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの洋服や髪型・アクセサリ等の好みを本人や家族から聴き取り、個性を大切にして自己選択出来ている。本人の持っている力が発揮できるように、化粧の習慣がある方には継続して化粧や好みの洋服の購入を支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事当番等を決めずにその時々を利用者の状況に合わせて食事作りや盛り付け・片付け等の声かけを行い、職員と共同して会話を楽しみながら食事の準備をして同じ食事を職員と摂る事で食事を楽しむ事が出来ている。また、外食や季節の弁当を希望された際には利用者の希望を聞き取り食事を楽しむ事が出来るように支援している。	昼食、夕食の副食は法人厨房からの配食を利用し、朝食とご飯、汁物、副食一品は地域からの差し入れの野菜や事業所の菜園で穫れた野菜を利用し、事業所で調理している。利用者の好みや食べたいものを聞いて献立を立て、利用者は洗米、盛り付け、台拭き、配膳、食器洗い、後片付けなどを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じ物を食べ、ゆっくりと会話しながら楽しい食事となるように支援している。季節の行事食、おやつ作り、花見弁当づくり、誕生日は利用者、職員、家族などと食べに出かけたり、家族と外食に行く利用者もいるなど食事を楽しめるように支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の適量を把握し、器や見た目の盛り付け・全体量等を個別に対応している。食事も嚥下・咀嚼状態に合わせて刻み・ミキサー等と加工をしている。食事の拒否がある方には、栄養補助食品を取り入れる事で食事や水分補給を画一化する事無く個別対応を行っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔内ケアの重要性を理解しており、利用者の持っている力を活かして殺菌効果のあるお茶で食後の口腔ケアが出来るように支援している。口腔ケアが出来ない方には義歯の洗浄やお茶を飲用して頂く、ガーゼ等で口腔内をケアして清潔保持を保っている。義歯は洗浄殺菌剤を使用して清潔保持に努めている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失禁が増えたり、トイレ誘導が本人のペースに合わなくなった時等は24時間アセスメントシートを活用して排尿・排便の時間や排泄パターンを把握して、本人に合った時間に声かけや誘導を実施し失禁を減らし、出来るだけトイレで気持ち良く排泄出来るよう努めている。	排泄表を活用し、一人ひとりのパターンを把握して、声かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、排便の有無や量・形状・水分補給量を把握し、食事摂取方法を工夫している。水分不足の利用者には工夫し飲用して頂ける様に努めている。また、日頃より散歩や階段昇降・廊下歩行等を生活の中で取り入れ身体を動かす機会を増やし個々に応じて便秘の予防に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	朝10時～17時までの時間に自由に入浴出来るようになってきている。個人の入浴日を設定せず希望に添いつつ、無理強いする事無く羞恥心等を考慮しながら入浴の声かけを行っている。入浴時間を個別のコミュニケーションの時間として会話を楽しんだりCDを流してリラックス出来る場づくりや歌を職員と一緒に唱う等、入浴を楽しめるように支援している。	10時から17時までの間に、希望に添って毎日ゆっくりと入浴できるよう支援している。入浴したくない人には声かけの工夫や時間をずらしたり、職員を交代するなど、工夫している。体調に応じての清拭や入浴剤を入れて入浴を楽しむなど、一人ひとりに応じた支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	①不眠気味の利用者には日中の関わりを多く持ち良眠出来るように働きかけている。食後の休息時は室温や雑音に配慮してソファへの誘導や声かけを行い安心して休息出来るようにしている。②利用者同士が声を掛け合いフロアで肩を寄せ合い安心して休息される自然なリズムが生まれている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人ケース記録に入れ込み服用している薬の名称・作用・副作用の把握に努めている。臨時薬の処方時は様子観察を強化して申し送り、医療関係者に情報提供できるようにしている。また、誤薬を回避するため、服薬セットはW確認・服薬介助時もW確認を図り飲み忘れや誤薬の防止に努めている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとり嗜好品・楽しみ事・気分転換等を本人の希望に沿って支援している。利用者の状態や潜在能力・記憶を活かして役割(家事・畑仕事・うさぎの世話・編み物等)を活かして、ハリのある生活がおくれるように支援している。	習字、紙芝居、読書、折り紙、新聞読み、クリスマスリース作り、七夕飾り作り、カラオケ、歌を歌う、ぬり絵、編み物、本の読み聞かせ、洗濯物たたみ、野菜の収穫、調理の下ごしらえ、配膳など、活躍できる場面づくり、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って外食・買い物・遠方へのドライブ・苺狩り・カラオケ・御大師様巡り・地域で行われている展示会等、家族や地域の方々の協力や支援を受けて日常的に外出している。また、重度の利用者も法人内の対応可能な車を手配して外出できるように支援している。	散歩、買い物、四季の花見(梅、菖蒲、紫陽花、ひまわりなど)、ドライブ(お大師様巡り、お雛様見学、ぶどう園、いちご狩り、道の駅など)や外食、初詣、寺参り、図書館に行く、地域行事の参加、馴染みの地の散策、家族の協力を得ての外食など、戸外に出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金の管理を希望された場合は家族と共に管理能力について相談の上、所持して頂いている。希望時には買い物に同行し、買い物や支払いが出来るように支援している。家族からの預かり金は使途に関しては入居時に説明しているが、本人の希望で支払いが生じる場合は家族に相談・報告をしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は電話が出来るようになっており、電話の取り次ぎも行っている。手紙や絵ハガキ等が書ける様に道具の準備を行い投函に同行して家族や大切な人との関係が途切れる事が無いよう支援している。①携帯電話を持たれておられる利用者には、充電を行い不安無く使用して頂いている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに玄関やフロアーや廊下に季節の花を活け・装飾や利用者の作品を利用者と共同して飾っている。また、リラックスして頂ける様にアロマ器を設置している。CDは自律神経にやさしい音楽を用意しており、不快な雑音や大きな物音を生じさせることが無いように配慮している。トイレ内は暖色系の電気を使用して夜間の不眠対策を図り利用者には不快感が無いように工夫している。	玄関には利用者と職員で作った季節の花木のオブジェが飾っており、ペットのうさぎがいる。廊下は広くソファを配置し、利用者の写真や作品が飾ってある。台所、食卓、畳の間が一体となっているリビングは掃出しのガラス窓から入る日射しで明るく、庭の花木を眺めることができ、台所からは調理の音が聞こえ、匂いがしている。温度、湿度、換気の調整に配慮し、テレビの前の大きなソファは利用者の居場所となっている。トイレ、浴室は手すりなど安全面の配慮あり、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアー内に皆さんとゲームや会話を楽しめるテーブル席やソファのスペースもあり利用者が思い思いに活用されている。また、一人で過ごせる場も設けており、その時々で好きな場所でくつろげるように工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前より馴染みの物を居室に持ち込んで頂きたい旨をなぜ馴染みの物が必要なのかを説明して持参して頂いている。また、自宅で行われていた習慣も継続出来るように支援している。仏壇を持参されている利用者や毎日の御仏飯を供えられる方もおられる。	テレビ、テーブル、椅子、飾り棚、衣装ケース、仏壇、時計、カレンダー、色紙、、ぬいぐるみ、人形、ペーパーフラワーやぬり絵の作品など、使い慣れた物や好みの物を活かして、本人が居心地よく、安心して過ごせるように工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	希望に沿って、畳みとベットを居室に準備しており、選択が出来るようになっている。また、段差が生じても身体機能を活かして転倒回避が出来るように危険防止の工夫を行っている。利用者の力を活かして動けるように環境整備や物品の検討を工夫している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームこもれび

作成日： 平成 25年 5月 20日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	61	利用者の重度化や利用者の要望が多様化しており、利用者の3分の2くらいしか戸外の行きたい所に行くことができていない。	ほぼ全員の利用者が、戸外の行きたいところへ出かけることができるように支援する。	利用者の行きたいところを把握した際は、利用者の重度化を問題視する事無く、また多様化する要望に応じることができるよう医療連携・家族との連携を図り、情報の共有を行う。職員は実践可能な状況を整え、利用者の行きたいところに行けるように実践する。	2年間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。